

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	癒しの森kids みくりや		
○保護者評価実施期間	2026年1月10日		～ 2026年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 7名
○従業者評価実施期間	2026年1月10日		～ 2026年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 月 日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の特性に合わせたトレーニングを行っている。集団活動に参加あじむために、日々、個別活動を積み重ね、みんなと一緒に活動できる為のスキルを身につける支援ができてることが強みである(適切な支援の提供)	それぞれの児童に合わせた個別プログラムの支援を通じて、5領域のスキルアップが出来るような取り組みを行っている。 自分の気持ち(情緒)のコントロールができるような声掛けを行っている。	児童の特性を理解して関わる為に、スキルアップのための勉強会や現状の児童の状況をしっかり把握するためのミーティング等を開催している。 (毎朝前日の療育の振り返りを行い、次の対応策や方針を職員間で共有している)
2	活動のスペースが広く、子どもたちの活動に合わせた空間となっており、エレベーターやバリアフリー化の配慮もできている。(環境・体制整備)	活動に合わせて、自由に空間をゾーニングしたり、子どもたちの活動や気持ちに合わせた環境作りを行っている。 毎日、消毒や清掃を行い、清潔に気持ちよく過ごせるような配慮をしている。	子どもたちが活動に合わせて、空間を使うだけでなく、活動空間はみんなですべて使っている事にも配慮できるような支援を行う。 運動している児童と静かに活動している児童がお互いに配慮できるような意識づけに取り組んでい
3	親子療育などのプログラムを導入し親子で一緒に活動に取り組んでもらい、その後ペア・トレ等の家族支援プログラムも実施していることが強みである。(保護者への説明等)	親子で一緒に工作やゲームを楽しんでもらえるような支援を意識して取り組んでいる。上手いかない場面での児童への声掛けや気持ちの切り替えのやり方を保護者様に共有できるよう工夫している。	保護者様と児童の関わりを専門的に観察し、よりよい関係性を築いてもらえるように家族支援へも取り組みも強化していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会の活動の支援や、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援やきょうだいへの支援は出来ていない。(保護者への説明等)	本年度は親子療育の取り組みから始めており、今後父母の会なども開催できるようにしたい。進学などについての相談もあるので経験された方からのアドバイス等も含めて保護者間の交流の機会も取り組んでいきたい。	保護者様のニーズを明確にして、交流に向けての取り組みも立案していきたい。きょうだい向けのイベントについても検討していく。
2	職員の配置数について、十分な職員配置はできているが、職員の支援スキルにばらつきがある。(適切な支援の提供)	職員一人ひとりの強みを支援に生かしていけるように、日々の振り返りや社内研修や社外研修等を開催していく。 児童一人ひとりに向き合い寄り添った支援ができるように指導していく。	児童の特性についても意見交換会を行っていく。 職員自身で児童の発達についての理解を深めていく必要がある。
3	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会がない。(関係機関との連携)	地域の児童発達支援センターと連携し、児童や保護者に対してどのような支援や助言をされているかをお伺いして事業所にも助言下さるような関係の構築を行う。	東大阪市の支援センターや行政の担当部署との連携を深めていけるようにしたい。